

保育園の三歳児の指導

坂 珠 江

四月の入園以来二か月余り、まだまだお家恋しさ、お母さん恋しさに、朝のわか

かれの時に泣く子も見られるが、元氣にとびはねている子もいる。全く三歳児は千差万別で、近所の友だちがいる子どもは、比較的、早く園の生活になじんで来られるが、そうでない遠方から来ている子どもや、ひとりっ子の甘えん坊は、園に慣れるまで日数がかかる。保育園では一日お預りする関係上、どうしてもおひるねをしてから帰るので、子どもの生活状態を見て、正午がえりからお弁当に、そして午睡へと段階をふんでゆく。二、三人位ずつだんだんに一日の時間を長くしてゆくの、全員が園生活になれるま

では五月の半ば頃までかかる。そして六月になると全員が一日保育になる。

朝、家の人に手をひかれて登園して来るが、この時の健康状態の観察は早出の先生にまかされた大切なものである。保育中健康状態に異常があれば、すぐにお母さんの仕事場へ連絡をし、処置をする。欠席していた子どもが登園してくれば、経過やその日の具合をきいたりする。年令がひくければひくい程、朝の健康状態は一日の生活に大切な視診である。

◎午睡について

朝のあそびからお弁当の時間までは楽しい子どもの楽天地だが、お弁当の半ばからそろそろ元気がなくなってくる子が

見える。午睡となると、今までニコニコしていたH子はベソをかいて泣きじゃくる。毎年の事ながら、おひるねをする五月から六月はたいへん。「先生保育園でねると明日になっちゃうよ」「僕うちでねるよ」などといって困らせる。なだめるのに一苦労。食事も半ばで、ふとんが次々に敷かれてゆくのを見て、もう御飯がのどに通らず、H子がしくしくすればA君はつられて声をあげて悲しむ。おひるねのこの時期は、もっていき方によってその後の子どもたちの生活状態がぐっと違ってくる。まだまだ三歳児は午後からの休息（睡眠）は絶対に必要である。一時から二時半までの一時間半というものは、どの子も、ぐっすりと眠っている。午前中のあそびに相当疲労しているのである。不安のない楽しいおひるねの時間、がたれるよう努力するのもこの時期である。またおひるねの好きなB子は、さっぱりした可愛らしいねまきを先生や友だちに見せる為に早くから着がえ、ふ

とんに座ったり立ったりして見せ歩いている。この子は落着きがなく、ふとんの中でも絶えずもじもじとしている。午睡のレコードがなつて二十分位は目を開けてキョロキョロ。ひとりずつ順番に手を押さえてあげたり、頭をそつと撫でてあげたりしてねかせてゆく。どこか体の一部分を押さえてあげたり、一しよに横になつてねると大喜び。毎日順番のくるのをまつている。この午睡の時間を大切に、ひとりひとりに安心感をもたせ、その傍で園の生活状態を家庭に連絡したりして個人指導に重点をおいている。

午睡の時間の他に、朝の自由あそびの後十時にゴザの上での休息をとる。上靴を脱いで真つ直ぐ上を向き十五分位してレコードをきく。この時に体の健康状態を見て、手足に傷があれば治療し、耳垢のたまっている子どもには掃除をしたりしている。

◎健康面に注意する

六月は入梅期にあり、とかく体に異状

のおきる時である。そこで組別の母の会をもち、園の今後の指導方針を話すとともに、保健所の職員に来ていただいて、栄養の面、特にお弁当のおかずについていろいろうかがうことにしている。カロリーがあつて腐敗しないものなどをあげていただき、それと同時に病気についての早期発見など表にして渡すなど、母親指導に重点をおいている。隣りが保健所なのでこの月は特につながりが深く、虫歯の検査と治療、上手な歯のみがき方法など、手をとつて教えてくださる。白衣を着た人を見ると、もうめそめそと泣きじゃくつていたYちゃんも、初めのうちこそ泣いていたが、たびたびの訪問に、もうすっかり慣れて予防注射もなんのその、すっかり保健所のかたと仲よくなつてしまふのもこの頃である。

◎生活指導

保育園でのあそびの中には、常にこの生活指導なるものが入つていなくてはならない。

用便の仕方など、皆でゆく時は順番をまつて、かけないように、ひとりだけでゆく時は先生に言つてからゆくなどを約束する。「パンツがぬれてしまったら先生に教えてね」と気持ちの悪いおもいをしないよう、家庭からはきかえのパンツを持つてきてもらつている。

うがい、手洗いはどの園でも同じように、朝と食事の前、おやつの前などときまつているが、食事の時の「はし」の持ち方についても家庭で躰けられなかつたりして、いまだに、にぎりばしの子どもも見うけられる。こういう小さな日常のことも指導してゆかなくてはならない。保育園ではすべてが生活指導である。年齢差のはげしい、個人差のきわだつ三歳児では、毎日くり返しくり返しの連続。二十五人の子どもの特徴をよく知つていないと時々たいへんな失敗の巻もある。おしつこの近い子どもに声をかけなかつたばかりに、もらされてしまつたり、おねしょをされたり、子どもと先生のタイム

ングが合わないことと失敗をやらかしてしま
う。清潔ということは保育園の場合特に
必要で、とかく親も子どもだらしなく
なり、朝の登園時に口のまわりがよこれ
ていたり、髪もとかさずに来たりして平
気であるのもある。これは親に注意する
ほか、子ども自身に清潔感をもたせる意
味で、お湯をわかつてふいたり、髪をと
かしたりして見せるが、本当に忙がしく
て手をかけてあげられない親の子どもた
ちの為に風呂があつたらなあと思ふこ
ともしばしばである。二日も三日もよご
れた体のままで来る子どもを見ると、そ
う思わざるを得ない。そこで週に一度、
金曜日にくんのカバーやシート、ねま
きなどを家にもつてかえつて、月曜日に
入れにきてもらうことにしている。そし
てこの日に、ツメの検査を徹底的にする
とともに、下着が清潔かどうかも調べて
見ている。また三歳児は顔をよく拭くし
上手でもある。例えば朝の十時のミルク
の前、食前と食後、三時のおやつの時

と帰宅の前など。二か月位でタオルの手
拭がうすくなってしまいうらいである。
また石鹸の手洗いも大好き、食事前には
相当の時間をとっておかないと間に合わ
ないほど、ゆうゆうとじゃぶじゃぶ洗っ
ている。うがいの音も高らかに、はるか
離れている私の所にとんで来て「先生！
聞こえた」とばかり大きな口をあける。
本当に三歳児らしい一面だ。食事の時に
思ふこと、それは、バン屋さんで買つて
来たそのままのコッパン、菓子パンを
袋から出すその姿、ちよつと手を加えて
おかずをそえてあげたら、と思ふくらい
に味気ないものでもある。そこで、喰べよ
いように包んで切つてあげたり、おかず
の少ない子どもには、ふりかけをかけて
あげたりする。それでも子どもたちはお
弁当が大好きで、楽しそうに喰べている。
子どもはあそぶことが大好きである。
この頃になると勝手に積木を出して汽車
を走らせたり、ブランコにとびのったり、
自由にあそびを見つけてとんでゆく。三

歳のもつとも興味のある砂場は、洋服じ
ゆう砂だらけ、ドッカー腰をおろして友
だちが何をしようが平気といった子ども
が、腕まくりをしておだんごなどを作っ
ている。年長、年中児たちとの共通の広
場なので、あそびを見て楽しんでる子
もある。片づけのレコードがなつても、
しらん顔をしてあそびに熱中している。
お天気のよい日は、つとめて外あそびを
する。それもはだして、上着を脱いで、
思ふ存分砂にくるまつてあそぶことにし
ている。
「砂がついて気持が悪いよ」となかなか
外に出たがらないＣちゃん、ペランダに
粘土（土粘土）を出して、ベチャベチャ
となにやら言いながら作っている。「お
庭は僕たちのものだよねえ」というよう
にあそびに一生懸命、私もいつの間にか
はだしになって砂場に立っている。「先
生も、は・だ・し」と元気な声をとんで
くる。

（東京・明石町保育園）